

令和4年度 校内研修全体計画

＜令和3年度の校内研修推進上の課題＞

- 生徒の実態から
 - ・生徒のいじめ出現率は高くないが、不登校の出現率が高い。また、差別発言等の思いやりのない言動をする生徒がまだにいる。
 - ・人間関係が希薄で、固定した友人とのコミュニケーションしか取れない生徒が多い。
 - ・全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査、学力診断テスト等の結果を見ると、全体的に全国・県平均を超えているが、観点別で見ると、多くの教科、学年において、「思考・判断・表現」の結果が低い傾向が見られる。
 - ・自分の考えを表現し、相手に自分の考えや意見を伝えることが苦手な生徒が多い。
 - ・全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の結果から、「自分の考えを深めたり広げたり」する活動において、全国・県レベルと同程度かやや下回る。また、「家庭学習の時間」については全国・県レベルより少ない。
- 教師の人材育成の観点から
 - ・授業実践となる主題研究、校内研修ができていなかった。
 - ・同僚性を重視し、同じ目標「豊かに学び続ける生徒の育成」に向かって協働する体制ができていなかった。

＜校内研修における令和4年度の目標＞

- 生徒の実態から
 - ・特別の教科「道徳」、人権教育を充実させ、豊かな心の育成を図る。
 - ・向上心をもたせ、自分を成長させるための確かな学力の定着を図る。
- 教師の人材育成の観点から
 - ・1人年間3回授業を公開し、互いに授業を参観（年間3回）することで授業力の向上に努める。
 - ・一般研修を通して、道徳教育、人権教育についての理解に努める。

【主題研究】

- **研究主題**
「向上心をもち確かな学力の定着をめざす生徒をはぐくむ授業の在り方の研究」～協働的な学びと振り返り活動を通して～
- **令和4年度の達成目標**
 - ・「協働的な学び」と「振り返り活動」を位置づけた授業の実施。
 - ・1人年間3回の授業公開と授業参観の実施。
- **研究の主な内容**
 - ・「協働的な学び」における教師の役割の明確化
 - ・「振り返り活動」における学習評価の在り方の究明

【一般研修】

- 令和4年度の達成目標
 - ・授業改善の推進
 - ・積極的生徒指導の推進
- 研修の主な内容
 - ・生徒指導、不登校の課題
 - ・人権・同和教育
 - ・特別支援教育
 - ・ICT活用
- 研修の主な方法
 - ・講師を招聘した講話
 - ・校内人材を活用したミニ研修

【研究推進委員会】

- 校長、教頭、主幹教諭、研究主任、研究副主任、各学年研究推進委員、人権・同和教育担当
- 研究推進委員会（週1回の定例会議）の主な推進業務内容
 - ・主題研究、一般研修の推進計画の作成およびその推進
 - ・研修内容に関わる指導助言

【主題研究推進組織】

- 研究主任を中心に、各教科部会と連携をし、主題研究の全職員への周知・推進を図る。

【一般研修推進組織】

- 研究副主任を中心に、研究推進委員会が関係する各分掌と連携し、一般研修の推進を図る。

○ 年間計画

月	主題研究	一般研修
4月	○ 本年度の研究の方向性提案	○ 特別支援教育に関する研修(配慮を要する生徒の確認を含む) ○ ICTの活用に関する研修
5月	○ 公開授業①(全員) 「協働的な学び」と「振り返り活動」を位置づけた授業の実施	○ 評価に関する研修
6月		○ 道徳の授業づくりに関する研修
7月	○ 公開授業②(全員) 「協働的な学び」と「振り返り活動」を位置づけた授業の実施	○ 人権・同和教育に関する研修 ○ 不祥事防止について
8月		○ 人権学習実践交流レポートに関する研修 ○ 学力調査結果に関する研修
9月		
10月	○ 公開授業③(全員) 「協働的な学び」と「振り返り活動」を位置づけた授業の実施	○ 特別支援教育に関する研修
11月		
12月	○ 本年度の研究のまとめ作成 ・「協働的な学び」における教師の役割の明確化 ・「振り返り活動」における学習評価の在り方の究明	○ 県立高校入試問題に関する研修
1月		○ 年度末アンケート
2月	○ 本年度のまとめ	○ 本年度のまとめ
3月	○ 来年度の計画作成	○ 来年度の計画作成